

1. 土地利用用途を考慮した判断の可能性

- 指定区域での対策の必要性があるかどうかの判断について、土地利用用途ごとに判断していく可能性があるのではないか。



暴露対象(大人、子供)、滞在時間、土壌接触の頻度、土壌摂食の可能性等の条件について、土地利用用途ごとに考慮して考えていく可能性があるのではないか。

例えば

公園等

住宅地

商業地

工業地

対策必要性の判断の目安となる基準値を土地利用用途ごとに設定することは考えられないか。

2. サイトリスクアセスメント活用の可能性

- 指定区域での対策の必要性があるかどうかの判断について、サイトリスクアセスメントを活用し、個々の土地の状況に応じて判断していく可能性があるのではないか。



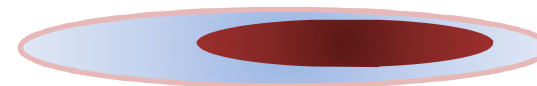
サイトごとの土地利用の条件及び汚染状況(汚染物質、汚染濃度、汚染の広がり)等に応じて、人の健康リスクを個々に判断して、対策の必要性を判断していく可能性があるのではないか。

例えば

一律的な基準



サイトごとのリスク評価



ブラウンフィールド問題への対応

ブラウンフィールド問題



汚染土地ごとの状況に応じたよりきめ細かな対応

土地利用用途ごとの対策

サイトリスクアセスメント

リスクコミュニケーションの推進

サイトリスクアセスメントを行うことにより、それぞれの現場におけるリスク評価結果が示されるので、関係者間のリスクコミュニケーションにおいて、共通のものさしによる相互理解の促進が期待される。



課 題

- 土地利用が後で変更される場合には、改めてその土地利用に応じた対応が必要になる。このため、土地利用が変更される場合にどのように安全性を担保していくかが課題となる。
- サイトリスクアセスメントについては、どのような場合に活用できるか検討が必要。また、技術的対応の可能性や、結果を評価する仕組みについて検討が必要。